

ヤコウガイ稚貝への効果的な海藻給餌

[要約] ヤコウガイ放流種苗の中間育成において、カタオゴノリとオゴノリの1種 *Gracilaria* sp を混合して給餌、または交互に給餌すると、それぞれを単独に給餌する場合に比較して成長が良くなる。

水産試験場八重山支場				連絡先	09808-8-2255		
部会名	水産	専門	栽培漁業	対象	ヤコウガイ	分類	研究

[背景・ねらい]

ヤコウガイは配合飼料になじみにくく、種苗の中間育成に際しては餌料海藻の確保が大きな課題となっている。供給量の不安定な天然海藻であるカタオゴノリと陸上で大量培養の可能なオゴノリの1種 *Gracilaria* sp を使用して効果的な給餌方法を試験した。

[成果の内容・特徴]

20リットルのプラスチック水槽を用い、前年度生産稚貝を30もしくは60個体収容して異なる餌料を与えた。試験開始時と1～2ヶ月間飼育した後に殻高を測定して成長を比較した。

- H12年度は
- カタオゴノリのみ、
 - Gracilaria* spのみ、
 - 両海藻の混合 の3方法の給餌について比較した。
- H13年度はさらに
- 両海藻を約5日毎に交互に給餌する区を加えた。

- 試験中の生残率は、95～100%であった。
- カタオゴノリのみを給餌した区の成長量に比較して、両種を混合して給餌した区では、カタオゴノリ区の1.08倍～1.36倍と最も成長が良かった。
両種を交互に与えた場合は、カタオゴノリ区の1.21倍の成長であった。
混合して給餌した場合と交互の場合の成長に有意な差はなかった。
- Gracilaria* spのみを給餌した区ではカタオゴノリのみとの区と比較して成長が勝る場合と劣る場合があった。
- 混合して給餌した場合、ヤコウガイはどちらか一方を選択することもなく、両種を摂餌した。

[成果の活用面・留意点]

- Gracilaria* spは通気状態では沈みにくいので、金属枠のネット（次頁図参照）をかぶせる等して沈ませ、摂餌しやすいようにする。
- 他の海藻でも効果があるのか今後試験する。
- 混合給餌は、トコブシやウニの中間育成にも応用できる可能性がある。

[具体的なデータ]

試験期間：H12年7月23日～8月23日

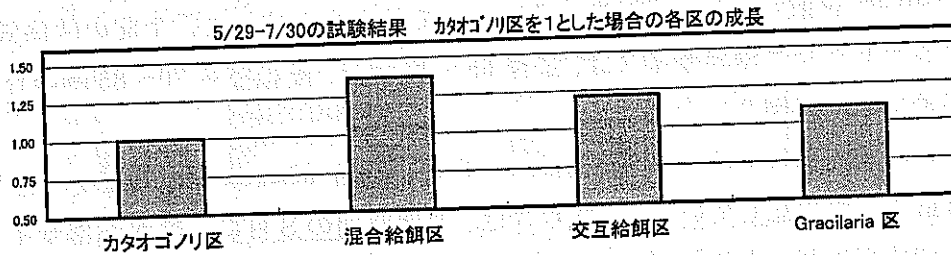
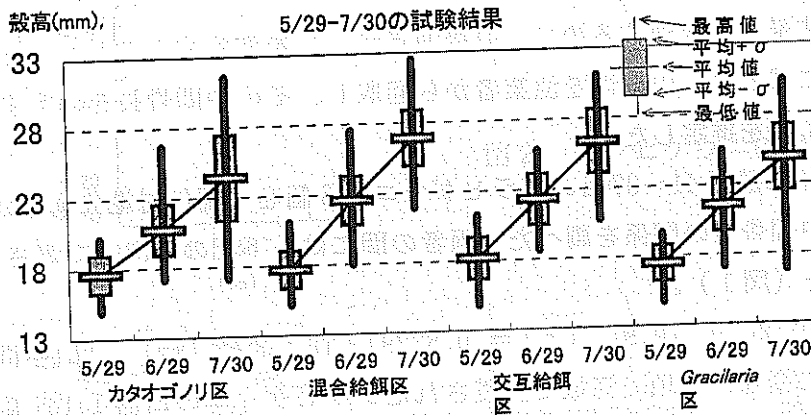
試験個体数：各区30個体×2区

	カタオゴノリ区	カタ+Gracilaria 区 (混合して給餌)	Gracilaria 区
試験開始時平均殻高(mm)	18.5	18.1	17.8
試験終了時平均殻高(mm)	22.3	22.2	20.9
期間中の成長量(mm)	3.8	4.1	3.1
期間中の成長量(%)	20.5%	22.7%	17.4%
カタオゴノリの成長を1とした場合の値		1.08	0.82

試験期間：H13年5月29日～7月30日

試験個体数：各区60個体区

	カタオゴノリ区	カタ+Gracilaria 区 (混合して給餌)	カタ+Gracilaria 区 (交互に給餌)	Gracilaria 区
試験開始時平均殻高(mm)	17.6	17.7	18.2	17.5
試験終了時平均殻高(mm)	24.4	26.9	26.3	24.9
期間中の成長量(mm)	6.8	9.2	8.2	7.4
期間中の成長量(%)	38.4%	52.1%	45.0%	42.3%
カタオゴノリの成長を1とした場合の値		1.36	1.21	1.09



[その他]

研究課題名：資源添加率向上技術開発試験

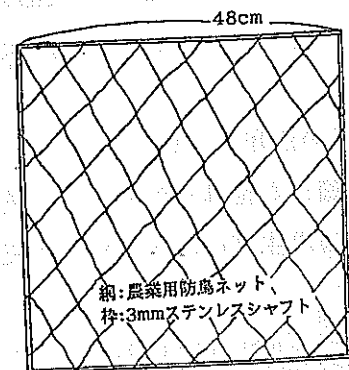
予算区分：国庫補助

研究期間：平成13年度 (12～13年度)

研究担当者：安井理奈

発表論文等：平成12年度資源増大技術開発報告書

平成13年度資源増大技術開発報告書 (予定)



Gracilaria sp を沈下させるために使用した金属枠ネット